

平成 29 年度  
第 2 回志布志市総合教育会議

平成 29 年 11 月 20 日（月）午後 2 時～  
志布志市役所本庁 2 階 庁議室

< 会 次 第 >

1 開 会

2 市長あいさつ

3 報 告

- (1) 大学と連携した取組について
- (2) コミュニティ・スクールの取組状況と今後について
- (3) 小中一貫教育の取組状況と今後について
- (4) 義務教育施設の整備状況について

4 協 議

- (1) 全国学力・学習状況調査の結果分析について
- (2) いじめ問題の現況と取組について
- (3) 奨学金制度について（特に医療系・看護系への制度について）

5 その他

6 閉 会

## 大学と連携した取組について

## 1 大学教授等の活用

## (1) 平成29年度の活用実績と今後の計画

授業づくり、生徒指導等アドバイザーとしての大学教授等の活用

教官名	知的情動的活用	備考
高谷哲也 准教授	◇ 授業研究の充実とよりよい授業の在り方構築 ◇ ワークショップ型授業研究	5/29安楽小学校 校内研修(算数)
奥山茂樹 准教授	◇ 大学院教育学研究科(教職大学院) ◇ 国語科専門 <3中学校参観>	5/29蓬原小学校 指導案検討(国語) 5/30 3中学校 国語科授業参観 6/12 山重小学校 校内研修(国語)
有倉巳幸 教授	◇ 生徒指導を中心とした指導 ◇ 「志布志市いじめ問題専門委員会」委員	6/2 志布志市いじめ 問題専門委員会
山本朋弘 准教授	◇ ICT教育推進アドバイザー派遣 ◇ タブレット端末の活用法をはじめとするICT教育	6/23 情報教育 担当者会 6/26 伊崎田小校内 研修(情報教育)
内 健史 准教授	◇ 大学院教育学研究科(教職大学院) ◇ 国語科専門	6/26蓬原小学校 小中連携研修会
下古立浩 准教授	◇ 大学院教育学研究科(教職大学院) ◇ 理科専門	6/27伊崎田中学校 校内研修(理科)
山元卓也 准教授	◇ 大学院教育学研究科(教職大学院) ◇ 理科専門	6/27松山中学校 フレッシュ研修(理科)
小柳正司 教授	◇ 道徳教育を中心した指導 ◇ 「志を高める教育推進協議会」委員	7/5志を高める教育 推進協議会講師
廣瀬真琴 准教授	◇ 「こころざしアップ教育講演会」講師 「人々が豊かに共鳴する学校」～思いや願いのあ ふれる時空間の創造～ 平成29年8月22日(火) 来賓 10人, 教職員181人, 市職員 70人 計261人	8/22こころざしア ップ教育講演会
山本朋弘 准教授	◇ ICT教育推進アドバイザー派遣 ◇ タブレット端末の活用法をはじめとするICT教育の取材	9/14潤ヶ野小学校 安楽小学校
内 健史 准教授	◇ 大学院教育学研究科(教職大学院) ◇ 国語科専門	10/23蓬原小学校 校内研修(国語)
奥山茂樹 准教授	◇ 大学院教育学研究科(教職大学院) ◇ 国語科専門	10/30野神小学校 校内研修(国語)

下古立浩 准教授	◇ 大学院教育学研究科（教職大学院） ◇ 理科専門	10/30潤ヶ野小学校 校内研修（理科）
岡村浩昭 教授	◇ 大学院学術研究院理工学域理学系 ◇ 出張サイエンス教室（CST）の開催	11/1 志布志小学校 5年生（理科）
山元卓也 准教授	◇ 大学院教育学研究科（教職大学院） ◇ 理科専門	11/16有明中学校 校内研修（理科）
高谷哲也 准教授	◇ 授業研究の充実とよりよい授業の在り方構築 ◇ 全ての教科に対応	11/16安楽小学校 地区研究公開講話
奥山茂樹 准教授	◇ 大学院教育学研究科（教職大学院） ◇ 国語科専門	11/20志布志小学校 校内研修（国語）
内 健史 准教授	◇ 大学院教育学研究科（教職大学院） ◇ 国語科専門	11/22宇都中学校 校内研修（国語）
奥山茂樹 准教授	◇ 大学院教育学研究科（教職大学院） ◇ 国語科専門	12/5 松山中学校 校内研修（国語）
山本朋弘 准教授	◇ ICT教育推進アドバイザー派遣 ◇ タブレット端末の活用法をはじめとするICT教育	12/8 情報教育 担当者会
有倉巳幸 教授	◇ 生徒指導を中心とした指導 ◇ 「志布志市いじめ問題専門委員会」委員	志布志市の教育行政に御協力をいただいている先生方です。各学校からの要望に対し、可能な限りお応えできるようにします。
小柳正司 教授	◇ 道徳教育を中心とした指導 ◇ 「志を高める教育推進協議会」委員	
樋口晶彦 教授	◇ 英語，外国語教育を中心とした指導	
上谷順三郎 教授	◇ 学力全般，国語科を中心とした指導 ◇ 「確かな学力の定着に向けた検討委員会」委員	
廣瀬真琴 准教授	◇ 学校を基盤とするカリキュラム開発 ◇ 教育方法学(授業研究，教師の力量形成)	

(2) 大学教官からのフィードバック例

国語科	<p>【授業の良さ】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>思考力・判断力・表現力の育成を目指した単元は、指導が難しく教師もなかなか積極的に取り組みにくいですが、教科書に掲載されている学習の流れをしっかりと押さえようとしている。</li> <li>生徒がそれぞれの学習の計画に従って進めていく学習については、生徒の学習状況を把握するのが難しいが、子どもの学習状況をこまめに把握しようと努力する姿がうかがえる。</li> </ul> <p>【改善のポイント】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>交流する場面では、友達の意見や感想，改善点等について、付箋や表などにまとめそれをもとに修正していくことが必要。その観点を示し、モデル的にその例を紹介することも効果的。</li> </ul>
-----	--

理科	<p>【授業の良さ】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>大隅地区の今年度の重点を受けて授業設計している点などの本時の視点について、チェック項目化されており、授業参加者が視点をもてることはもちろんだが、作成する授業者自身改めて何のための授業が再確認できる効果的な手立てだと思った。</li> </ul> <p>【改善のポイント】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>生徒一人一人にしっかり考えをもたせる時間を確保してほしい。例えば、導入部で学習課題を焦点化するにあたって、一部の生徒とのやり取りで進められるように見えたところがあった。学習課題を焦点化する場面は重要である。生徒一人一人の思考の流れを考え、生徒一人一人にこれから調べてたいことを考えさせ、共有化し、学習課題としたい。</li> </ul>
----	---

(3) 児童生徒の感想（鹿児島大学生の志学教室への参加）

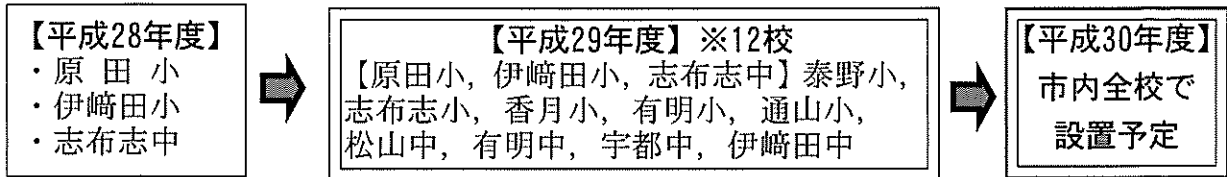
香月小学校 5年生
<p>夏休み学習教室に来て、前期にも来てほしいは終わっていたけれど、習い事を出す宿題なども学習教室ですることができて良かったと思います。大学生が学習教室に来て、わたしや友達に教えてもらってとても分かりやすかったです。後期は、人数がすくなくだったので、3年生から6年生、みんなで勉強しました。大学生の一人が友達が分からない問題を教えて練習として問題を作っていたり、大学生はとてやさしい人でした。</p> <p>また、来年も学習教室で勉強したいです。</p>
潤ヶ野小学校 6年生
<p>前期も後期も参加して午前中の勉強習慣が身についた。後期は前期に比べて人数が少なく涼しい部屋で勉強できた。また、集中力も上がり、たくさん進んだ。身長183cmの鹿児島大学の先生に流水算を教えてもらい今後は生かそう思う。教え方が上手でおもしろいとえだから楽しかった。この勉強会に来て2学期の準備が出来た。</p> <p>前期も後期もお世話になりました。ありがとうございました。楽しかったです。</p>

(4) 学生の感想

志アップ「学習支援サポーター」学生派遣活動に参加して 鹿児島大学教育学部4年
<p>教育実習では学ぶことのできない子どもの実態をより深く学びたいという気持ち、来年の4月から教壇に立つことを意識して、学校や地域の環境の違いにおける子どもの実態について学ぶために、学習支援という形で子どもと触れ合う機会が自分にとって必要だと感じ、参加させていただきました。</p> <p>子どもたちから質問が出る雰囲気ではなかったのですが、積極的に話しかけると、「ここがわからない。」など子どもたちが質問してくれるようになりました。学ぼうという意欲は、すごくあるように感じたのですが、特に、市が提供している問題集などを解いているときは、ただ解いている状態、受け身の状態になっている子どもの様子が見られ、間違っただけのまま、曖昧なまま、とりあえず解こうという様子も少し見られました。だから、この問題をどう考えて、どう解いたのかを聞いた上で、もう一度一緒に解いてみて、間違いを一緒に見つけてあげるように取り組んでみました。すごく理解してくれて、次の問題に望んでいる子どももいました。</p> <p>志学教室だけでなくそれぞれの学校が、「ただ勉強する場所ではなく、教えてくれる先生のいる学びのつまずきを克服する場所」という自覚を持たせるために、質問することの重要性を教えることは大切だと思いました。貴重な体験をさせていただき、ありがとうございました。</p>

## コミュニティ・スクール(CS)の取組状況と今後について

## 1 CS導入校について



## 2 今年度の取組

期日等	主 な 取 組
4 月	小学校7校と中学校5校の計12校(新規9校)を指定。
6月22日(木)	<b>学校運営協議会制度に関する講演会</b> 講 師：木村直人先生(文部科学省参事官) 場 所：香月小学校 参加者：各学校の学校運営協議会委員, 学校関係者(計108名) 内 容：学校運営協議会制度がなぜ必要なのか, またその役割とはどんなものかということについて, 分かりやすく講話をしていただいた。
8月28日(月)	<b>第1回学校運営協議会委員合同研修会</b> 講 師：梶原敏明先生(文科省CSマイスター, 大分大学COC+推進機構) 場 所：志布志支所1階会議室 参加者：各学校の学校運営協議会委員, 学校関係者(計81名) 内 容：今年度取り組んでいる12校の委員による合同研修会を開催した。28年度からモデル校として取り組んできた3校が実践発表を行った。いずれも, 今年度から取組を始めた学校の参考となるものとなった。 梶原敏明先生の講話では, 実際の協議会で, 委員同士が活発に意見交換を行うことを目的に, 「熟議」の仕方について参加型研修を実施した。実践的な内容であり, 各学校運営協議会の活性化につながるものとなった。
9月28日(木)	<b>地域とともにある学校づくり推進フォーラム(大分大会)</b> 場 所：iichiko 音の泉ホール(大分県大分市) 参加者：各学校の学校運営協議会委員, 学校関係者(計18名) 内 容：文科省による制度の概要説明, 実践校の取組事例の紹介が行われた。参加した委員が目的意識をもって参加し, 研修したことについて, それぞれの学校運営協議会において伝達することができた。

## 3 今後の取組計画

2月に委員の合同研修会を計画している。各学校の取組を相互に紹介し合い, 今後の活動が活性化するような研修にしたい。また, 30年度から新規設置予定の小学校9校(松山小・尾野見小・潤ヶ野小, 安楽小・田之浦小・森山小・蓬原小・野神小・山重小)の管理職や学校評議員にも出席してもらい, 新年度から円滑に始められるようにしたい。

## 4 次年度に向けて

平成29年4月の法改正により学校運営協議会の設置が努力義務となった。保護者に対しては, 学校の広報活動により周知が図られているが, 地域住民に対しては十分に周知されていないという現状もある。平成30年度から新規設置する学校においては, 学校便り(地域への配布)や学校ホームページを活用した広報活動を行わせるようにしたい。また, 市報等を利用した地域住民への広報活動も, 教育委員会事務局で行いたい。  
 平成30年4月に開校予定の小中一貫教育校(伊崎田小・中学校)における学校運営協議会の組織・運営の在り方についても, 先進校の事例を参考にして, 充実した協議会となるよう支援を行っていききたい。

## 小中一貫教育の取組状況と今後について

### 1 取組状況(布志市小中一貫教育推進協議会)

#### ○ 第2回志布志市小中一貫教育推進協議会(平成29年7月4日(火))の概要

##### 【小中一貫型小・中学校の名称】

- ・ 『伊崎田学園』に決定。

##### 【横断幕】

- ・ 3カ所に掲示する。
- ・ 開校後も, 1, 2年間は横断幕を掲示する。

##### 【その他】

- ・ 学園歌, 愛唱歌についても検討する。

#### ○ 第3回志布志市小中一貫教育推進協議会(平成29年8月28日(月))の概要

##### 【横断幕】

- ・ 9月6日(水)に, 校長住宅前, 小学校正門前, 伊崎田コミュニティセンター前に設置する。
- ・ 横断幕以外にも, 懸垂幕等も今後検討する。

##### 【開校式典等】

- ・ 平成30年4月に「開校式」, 平成31年3月に「開校記念式典」を開催する方向で準備を進めていく。

##### 【その他】

- ・ PTAの在り方も今後検討していく。

#### ○ 第4回志布志市小中一貫教育推進協議会(平成29年11月7日(火))の概要

##### 【リーフレット】

- ・ A3両面三つ折りの学園紹介リーフレットを平成30年1月中旬に作成する。
- ・ 部数をより多くし, 伊崎田の全戸数, 伊崎田保育園にも配布できるようにする。
- ・ リーフレット記載内容やレイアウト等を次回再度検討する。

##### 【アンケート】(学園に望むこと)

- ・ 学園をイメージしやすいように, 学園全体図を入れる。
- ・ 自治会や伊崎田保育園にもアンケートを依頼する。

##### 【開校式等】

- ・ 4月10日(火)10時頃から30分程度の開催で調整。(9日(月)は転入教職員宣誓式のため)
- ・ 来賓等の挨拶だけがメインとならないようにする。
- ・ 伊崎田出身の方を呼んで講演も入れてもよいのではないかと。(記念式典の際がよいのでは)
- ・ 記念式典は新校舎の落成式と併せて, 平成31年3月に行う。

##### 【教育課程等】

- ・ 来年の大運動会を「第1回伊崎田大運動会」とする。(今年は試行)
- ・ 学習発表会や文化祭は, 別々に開催するにしても1コマ枠を入れて参加(連携)していくなど, 今後検討していく。
- ・ 小学校の卒業式に中学生の代表が挨拶するなど, 様々な行事の中で連携できるものを増やしていく。
- ・ 授業における連携(乗り入れ授業や合同学習)を積極的に取り入れていく。
- ・ 総合的な学習の時間の内容を, 現行のものを基に再編成し, 特色ある教育活動になるようにする。

##### 【その他】

- ・ 学校応援団として, 長寿会の方々と学校との関わりを多くもてるようにする。
- ・ 学園歌に関しては, 次年度予算化する。
- ・ 伐採される銀杏の木を再利用して, 学園名を彫ったプレートを作成する。
- ・ PTAの組織については, 平成30年度に1つの組織としてスタートするのは難しい。組織の体制をどうしていくか, 平成31年4月に結論が出るよう, 今後話し合いを進めていく。

### 2 今後の予定

- 第5回志布志市小中一貫教育推進協議会…平成29年12月19日(火)
- 第6回志布志市小中一貫教育推進協議会…平成30年2月27日(火)

## 義務教育施設の整備状況について

義務教育施設(学校施設)については、児童生徒等の安全を確保するとともに、地域住民の応急避難場所としての役割も果たすことから、その耐震性能の確保及び老朽施設の質的整備を図ることが大きな課題となっており、それぞれの施設ごとに年次計画を立て、計画的な整備を行っている。

## ①校舎及び屋内運動場の耐震化改修について

昭和56年以前に建築(旧耐震基準)された校舎等については全て耐震診断を実施し、耐震補強が必要と判定されたものを、耐震性能の低い順に補強工事を行い、平成21年度～27年度までで完了した。

また、耐震補強工事に併せて外壁落下防止や強化ガラスへの取替え等、非構造部材の耐震化を含む全面改修を行っており、老朽化した校舎等のリフォームも行っている。

## ●これまでの耐震補強改修工事及びそれに伴う全面改修実績

実施年度	学校名	棟数	備考
平成21年度	志布志中学校	1棟	3階建教室棟
平成22年度	松山中学校	3棟	管理教室棟、教室棟、特別教室棟
平成23年度	田之浦小学校	2棟	特別教室棟、屋内運動場
	伊崎田中学校	1棟	屋内運動場
	森山小学校	1棟	屋内運動場
平成24年度	松山小学校	2棟	管理教室棟、教室棟
	有明中学校	1棟	教室棟
	潤ヶ野小学校	1棟	教室棟
平成25年度	香月小学校	1棟	特別教室棟
	志布志小学校	1棟	管理教室棟
	有明小学校	1棟	管理教室棟
	潤ヶ野小学校	1棟	屋内運動場
平成26年度	野神小学校	1棟	教室棟
	尾野見小学校	1棟	管理教室棟
平成27年度	伊崎田小学校	1棟	管理教室棟
	香月小学校	1棟	教室棟
	松山中学校	1棟	屋内運動場

## ②校舎及び屋内運動場の老朽化改修について

学校施設の校舎等については平成27年度までの補強工事及び全面改修工事の完了に伴い、平成28年度からは引続き、耐震診断で耐震性有りと診断された、老朽化した校舎等施設の老朽化改修(全面改修)を、優先度の高い順に行っていく計画である。

## ●老朽化改修(全面改修)工事实績及び今後の計画

実施年度	学校名	棟数	備考
平成28年度	泰野小学校	3棟	管理教室棟、教室棟、特別教室棟
	通山小学校	1棟	特別教室棟(上校舎)
	松山中学校	3棟	管理教室棟、教室棟、特別教室棟
平成29年度	原田小学校	1棟	管理教室棟
	安楽小学校	1棟	管理教室棟
	伊崎田小学校	1棟	屋内運動場
	伊崎田中学校	2棟	管理教室棟、特別教室棟
平成30年度	伊崎田小・中学校	1棟	特別教室棟(複合施設)の建替え
平成31年度	森山小学校	1棟	管理教室棟
	尾野見小学校	1棟	屋内運動場
	泰野小学校	1棟	屋内運動場
	志布志中学校	1棟	特別教室棟
	松山中学校	1棟	特別教室棟(後校舎)
	潤ヶ野小学校	1棟	管理教室棟
平成32年度	志布志小学校	2棟	教室棟2棟
	松山小学校	1棟	屋内運動場
	山重小学校	1棟	屋内運動場

### ③トイレ洋式化改修について

学校施設のトイレの洋式化については、平成29年度末時点で、小学校全体の洋式化率が39.9%、中学校全体の洋式化率が30.2%、小中学校合わせて36.6%となっている。

今後もトイレ棟の全面改修工事や、洋式化率の低い学校から優先的に洋式化改修工事等を行うことにより、平成33年度末までに小中学校全体で50%以上の洋式化率を達成するため、年次的に実施していく予定である。

### ④各教室への扇風機の設置について

市内各学校の普通教室につきましては、平成28年度までに全ての普通教室に天井等への扇風機の設置が完了しており、平成29年度からは特別教室につきましても設置を行っているところである。

今後も年次的に各学校要望の高い教室から優先的に1~2室ずつ、天井等への扇風機の設置を行い、全ての特別教室に扇風機が設置されるまで事業を行う予定である。(平成33年度完了予定)

### ⑤各学校グラウンド改修について

市内各学校のグラウンドにつきましては、降雨時に水引きの悪いところや、芝面と土面に大きな段差が生じているところが多いため、平成27年度から優先度の高い学校を段差解消、水勾配の改善を目的とした表土の入替え工事を行っており、今後も年次的に工事を行い全ての学校の改修を行う計画である。(平成35年度完了予定)

また、それに合わせて周辺施設の整備や遊具の改修を行うことで、屋外環境の改善を図っている。

#### ●グラウンド改修工事実績及び今後の計画

実施年度	学校名	改修内容
平成27年度	泰野小学校	段差解消を目的とした表土の入替え。
	蓬原小学校	段差解消を目的とした表土の入替え。
平成28年度	野神小学校	段差解消を目的とした表土の入替え、及び周辺遊具の塗装等改修。
	宇都中学校	段差解消を目的とした表土の入替え、及び周辺フェンス等の整備。
平成29年度	有明小学校	段差解消を目的とした表土の入替え、及び周辺遊具の塗装等改修。
	有明中学校	段差解消を目的とした表土の入替え、及び周辺フェンス等の整備。
平成30年度	原田小学校	段差解消を目的とした表土の入替え、及び周辺遊具の塗装等改修。
	松山小学校	段差解消を目的とした表土の入替え、及び周辺遊具の塗装等改修。
	松山中学校	段差解消を目的とした表土の入替え、及び周辺フェンス等の整備。
平成31年度	山重小学校	段差解消を目的とした表土の入替え、及び周辺遊具の塗装等改修。
	志布志小学校	段差解消を目的とした表土の入替え、及び周辺遊具の塗装等改修。
	志布志中学校	段差解消を目的とした表土の入替え、及び周辺フェンス等の整備。
平成32年度	尾野見小学校	段差解消を目的とした表土の入替え、及び周辺遊具の塗装等改修。
	通山小学校	段差解消を目的とした表土の入替え、及び周辺遊具の塗装等改修。
	伊崎田中学校	段差解消を目的とした表土の入替え、及び周辺フェンス等の整備。

※中学校については平成32年度で終了し、それ以降は小学校費の整備数を増やす計画である。

### ⑥プール周辺環境の整備について

市内各学校のプール周辺については、コンクリート等の除草対策がされていない部分に蛇や害虫が発生し、児童、生徒に危険が及ぶため、平成27年度から張りコンクリート及び遮熱塗装を行っており、今後も優先度の高い学校から、年次的に工事を行うことで、安全を確保していく計画である。(平成35年度完了予定)

### ⑦各小学校遊具設備の改修について

市内各小学校に設置されている遊具施設について老朽化が進んでいるため、平成27年度に各小学校の全ての遊具について調査を行い、優先度の高いものから溶接補強及び塗装改修による改修工事を行っているところであり、今後も優先度の高いものから年次的に改修を行い、全ての遊具の改修を行う計画である。(平成35年度完了予定)

なお、老朽化の著しいもの、現在の安全基準に適さないものについては撤去を行い、必要であれば新たな遊具の設置も検討していく計画である。

※ 今後も毎年の学校要望を精査し必要な施設整備を行いながら、各施設の年次的な整備、改修計画に基づく施設整備を行っていく予定です。



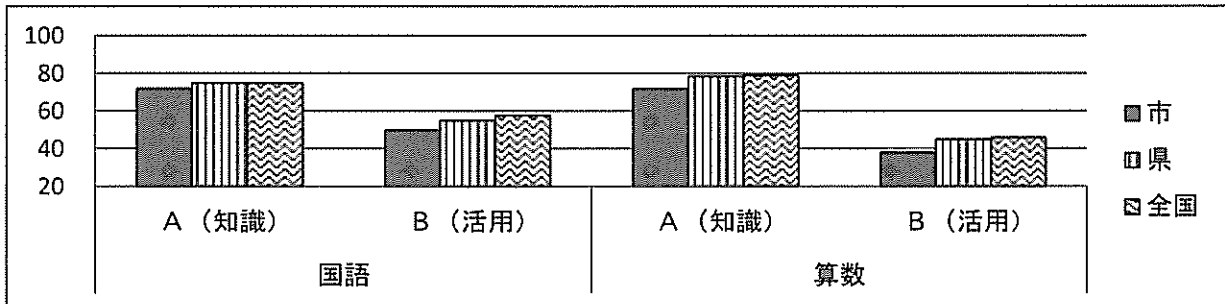
## 平成29年度全国学力・学習状況調査結果について

## 1 教科に関する結果について

- 調査日:平成29年4月18日(火) ○ 対象:小学校6年生, 中学校3年生  
 ○ 教科:国語, 算数(数学) ○ 内容:A問題(知識), B問題(活用)  
 ○ その他:学習状況調査(児童質問紙, 学校質問紙)

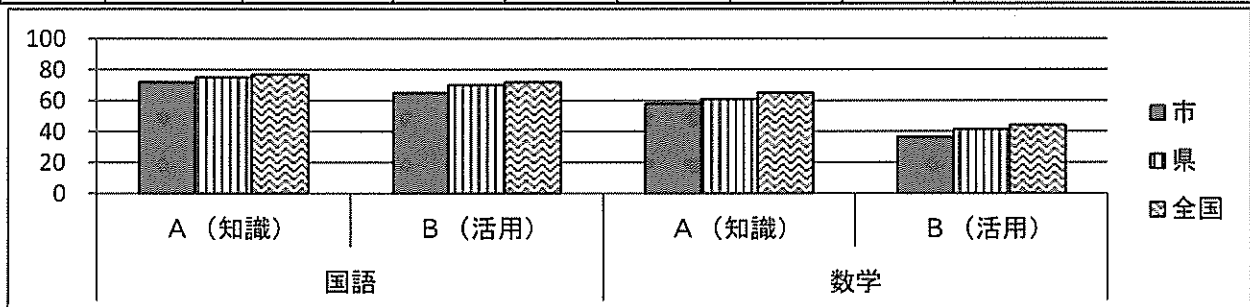
## (1) 小学校(A問題・B問題)平均正答率 ※ 数値は四捨五入した整数値

教科	内容	設問数・一問率	市	県	全国	県との差	全国との差	全国平均到達まで
国語	A(知識)	15問・7%	72	75	75	-3	-3	あと1問でプラス 4
	B(活用)	9問・11%	50	55	58	-5	-8	あと1問でプラス 3
算数	A(知識)	15問・7%	72	79	79	-7	-7	あと1問で全国値
	B(活用)	11問・9%	38	45	46	-7	-8	あと1問でプラス 1



## (2) 中学校(A問題・B問題)平均正答率 ※ 数値は四捨五入した整数値

教科	内容	設問数・一問率	市	県	全国	県との差	全国との差	全国平均到達まで
国語	A(知識)	32問・3%	72	75	77	-3	-5	あと2問でプラス 1
	B(活用)	9問・11%	65	70	72	-5	-7	あと1問でプラス 4
数学	A(知識)	36問・3%	58	61	65	-3	-7	あと3問でプラス 2
	B(活用)	15問・7%	37	41	44	-5	-8	あと1問で全国値



## (小学校)

国語A:あと1問で県・全国を+4上回る。国語B:あと1問で県を+6, 全国を+3上回る。

算数A:あと1問で県・全国と同等になる。算数B:あと1問で県を+2, 全国を+1上回る。

※ 小学校においては, 全校体制で補充指導をした国語4校, 算数2校で大幅な伸びが見られる。

※ 全児童があと1問正解すると, 県・全国を上回る。算数のA問題の確実な定着が必要である。

## (中学校)

国語A:あと1問で県と同等, あと2問で全国を+1上回る。国語B:あと1問で県を+6, 全国を+4上回る。

数学A:あと1問で県と同等, あと3問で全国を+2上回る。数学B:あと1問で県を+3, 全国と同等となる。

※ 国語AB, 数学ABともに県・全国平均を下回っているが, 昨年の本市平均正答率より伸びがみられる。

※ 数学Aは, 県との差を3ポイント縮めている。

・ 本市の本年度の目標である, 県以上の平均正答率は達成できていない。

・ 小・中学校ともにB問題が大きく落ち込んでいることから, 資料と関連付けたり根拠をもとに説明したりするなど主体的で対話的な学習が求められる。また基本的な内容の補充指導を引き続き全校体制で行う必要がある。

# 平成29年度「全国学力・学習状況調査」結果

平成29年4月18日（火）、全国の小学校6年、中学校3年を対象にした「全国学力・学習状況調査」が行われました。学力面では、国語と算数（数学）、学習状況面では、生活習慣・学習習慣についての調査が行われました。

## Q1 どんな調査なの？

A問題（知識に関する問題）：知識・技能等がどれだけ定着しているかを測る問題

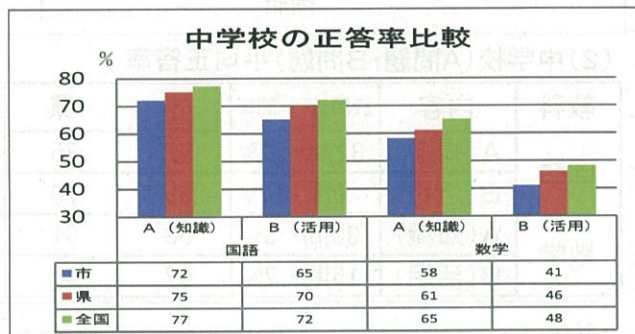
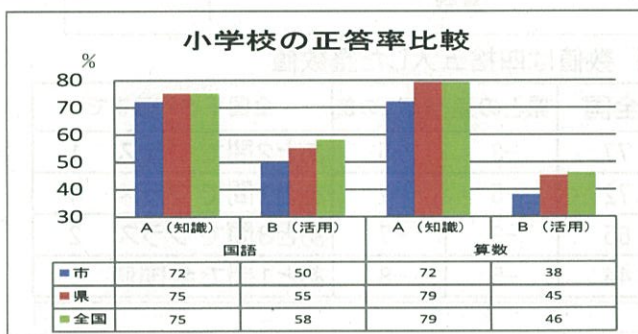
B問題（活用に関する問題）：知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力を測る問題

児童生徒質問紙：学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する質問

学校質問紙：指導方法に関する取組や人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する質問

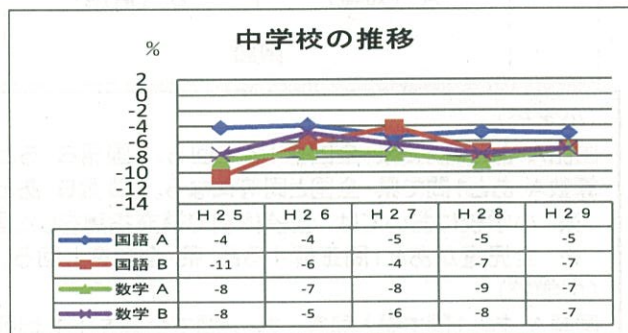
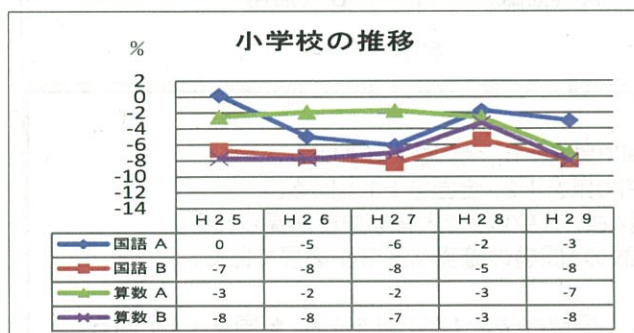
## Q2 志布志市の子どもたちの学力の結果は？

小・中学校ともに漢字の読み書きや計算は、全国より高い正答率でした。小学校では国語・算数のB問題に大きな課題があります。算数の知識に関する問題においては、既習内容を忘れる傾向がありました。中学校も小学校同様国語・数学のB問題に課題がありますが、数学では県や全国との差が少しずつ縮まっています。小・中学校ともに自分の考えに理由を添えて記述したり、説明したりする問題は正答率が低い傾向にあります。



## Q3 過去の結果と比べるとどう変化している？

中学校では、数学のA・B問題で少しずつ全国との差を縮めています。小学校では昨年度4ポイントほど全国との差を縮めましたが、本年度は国語・算数のA問題、B問題で全国との差が広がる結果となりました。



## Q4 児童生徒質問紙での回答を全国と比べてみると

全国と比較して「肯定的な回答」が多かった質問

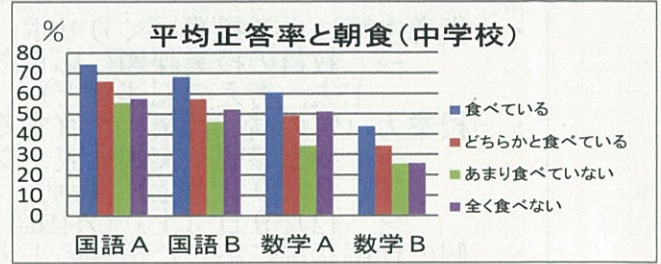
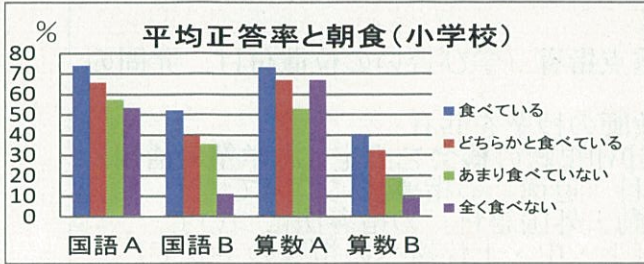
- 難しいことにも失敗を恐れず挑戦する。
- 人の役に立つ人間になりたいと思う。
- 読書は好きですか。
- 将来の夢や目標をもっていますか。
- 学校に行くのは楽しいと思いますか。
- 国語や算数の授業の内容はよくわかりますか。

全国と比較して「否定的な回答」が多かった質問

- 自分にはよいところがあると思いますか。（中学校）
- 自分の考えを友達に説明したり、文章に書いたりすることは難しいとは思わない。
- 家でどれくらい勉強をしますか。（小学校1時間以上、中学校2時間以上）
- 新聞を読んでいますか。

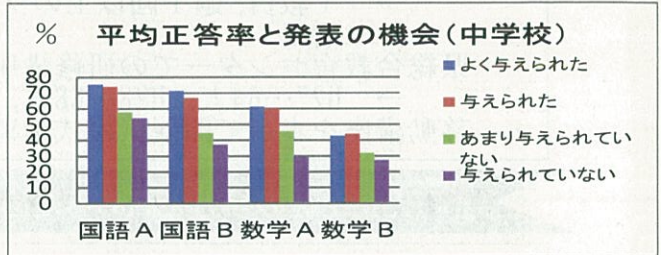
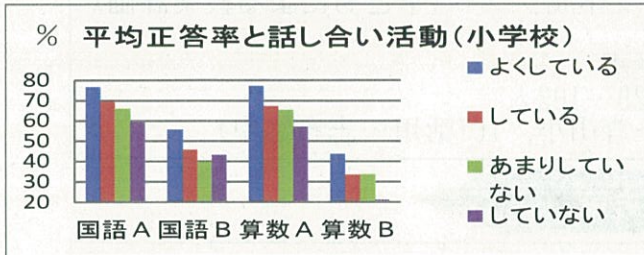
### Q5 朝食と学力の関係は？（児童質問紙から）

朝食をしっかり食べる（生活リズムが整っている）児童生徒の平均正答率が高い。



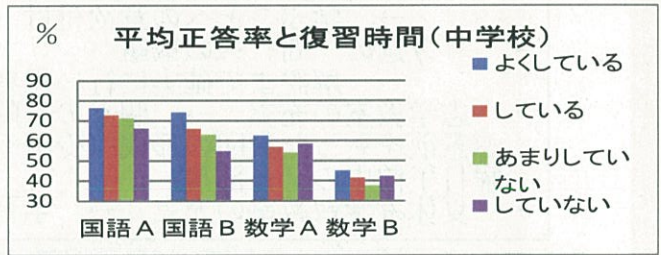
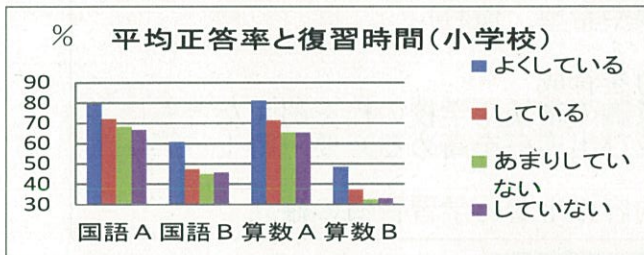
### Q6 学校における指導と学力の関係は？（児童生徒質問紙から）

授業で話し合ったり，発表の機会が与えられていたりする児童生徒の平均正答率が高い。



### Q7 復習と学力の関係は？（児童生徒質問紙から）

学習したことを家でしっかりと復習する児童生徒の平均正答率が高い。



### Q8 「確かな学力の定着」に向けて学校ではどんな取組を行うの？

- 1 「志布志の授業モデル」（1時間の学習の流れを示したもの）を活用し，見通しを立てて自力解決したり考えの交流をしたりしながら思考力を高めていきます。
- 2 ICT機器（電子黒板，タブレット，書画カメラ）を効果的に活用し，児童生徒の学習意欲の向上やより分かり易い授業となるよう指導法の改善に努めます。
- 3 身に付けた知識・技能をもとに，様々な資料を活用しながら自分の意見をまとめたり，児童生徒同士が考えを交流したりする授業の推進に努めます。
- 4 学習規律を含めた「学ぶ力」を育み，落ち着いた雰囲気の中で授業に臨めるようにします。
- 5 地域の人材（学校応援団）を積極的に授業で活用し，地域ぐるみによる教育活動を推進します。
- 6 志布志市共通実践事項「そろえる」を各学校で具体的に設定し，当たり前のことから当たり前でできる児童生徒を育成します。
- 7 教職員が積極的に授業を通じた研修を行い，授業の質を相互に高めていきます。
- 8 小・中学校が常に連携を図り，小学校での学びを中学校へとつなげます。

### Q9 保護者は，どんなことをすればいいの？

- 1 家庭学習を毎日続けるように子どもに声かけをし，見届ける。
- 2 学校行事，PTA等積極的に参観し，子どもとの話題づくりに努める。
- 3 スマホ等，電子機器の使用については「守ります！9時オフ。」を家族で守り，規律正しい生活習慣づくりに努める。
- 4 親子読書や家庭学習時間など，学校で設定した「そろえる」をキーワードにした共通実践事項を家庭でも実践する。
- 5 キラリ輝く「しゅしゅ」育成事業等の体験活動に積極的に参加する。
- 6 「志アップ子育て手帳」をPTA活動や家庭教育の中で活用する。

### 教師の指導力を高めるための方策

- ・ 指導主事による授業づくりサポート  
→ 教員の授業課題に応じた重点指導（学び合いの位置付け、発問の工夫、考えの記述など）
- ・ 授業力（質の高い授業）を有する教師の授業を共有  
→ 授業参観や実践発表、授業DVD視聴の機会を設定（志学塾の活用）  
9月9日（土）「特別の教科 道徳」の指導法について  
12月9日（土）「外国語活動・外国語科」の指導法について
- ・ 個の理解状況に応じた指導の工夫（下・中・上位層への指導の手立て）
- ・ 鹿児島大学教授等及び学生の活用  
→ 1学期活用校の変容（授業改善への意気込み、主体的学び合い）
- ・ 授業を通じた校内研修の充実及び校外研修会への意図的・計画的参加  
→ 授業を通じた校内研修が少ない学校への指導  
→ 1教員、週1回以上のグラフ作成ソフト（子どもによる授業評価）の活用
- ・ 県総合教育センターでの研修講座受講  
→ H27…64人、H28…88人、H29…102人
- ・ 移動講座を本市で開催（複式指導…森山小、ICT活用…志布志中）

### 児童生徒の学力を高めるための方策

- ・ 学習規律、基本的な生活習慣の確立  
→ “そろえる”の習慣化、生活記録表等の活用、親の意識啓発（志アップ子育て手帳、学校便り等）
- ・ 全教育活動を通じた「向上心、公德心、感謝の心、敬愛の心、郷土愛、生命尊重」の心の育成  
→ 学ぶことへの意欲付け（夢や希望、憧れ）
- ・ 「今週の一問」への取組  
→ 解説まで確実にを行い思考力を育成
- ・ 志学教室の充実 → 個々の目的意識の継続や学校の枠を超えたともに学ぶ意欲をもった集団の形成（受講率及び出席率を高める必要→第1・第4土曜日午前中のノー部活）
- ・ 夏休み学習教室の充実 → 学習内容の定着と学習習慣の確立

### 家庭や地域との連携を強化するための方策

- ・ 各中学校区での9年間を見通した家庭学習の手引きの見直し（小中連携）
- ・ 授業態度、学ぶ姿勢や意欲等に関する保護者等への啓発・情報発信
- ・ 少年団活動や部活動の適正化 → 休養日や練習時間等の改善

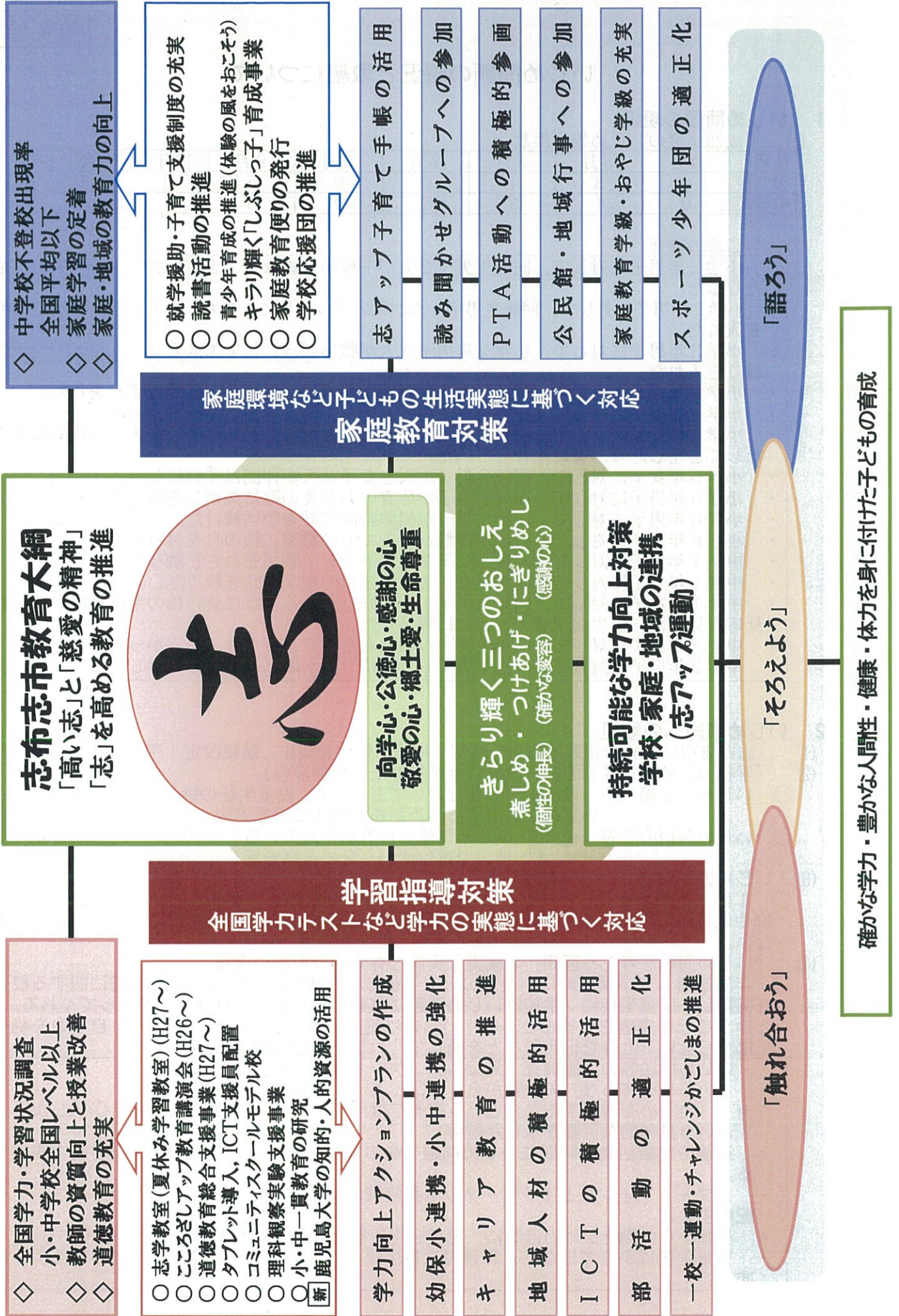
### 管理職の意識改革と実行力を高めるための方策

- ・ 教育委員による校長面談の実施  
→ 市民代表者の思いを直接伝え、校長の危機感を高める。
- ・ 管理職研修会における学力向上実践例の発表  
→ 各校の実践を知ること自校への取組に生かす。
- ・ 校長研修会において全国学力・学習状況調査、鹿児島学習定着度調査、各種学力検査結果を受けた方策の作成と協議の実施  
→ 管理職としての具体的取組の実践化
- ・ 教頭研修会において、これまでの反省と今後の「教頭としての仕掛け」について協議 → 鹿児島定着度調査に向けた教頭の具体的取組の実践化

### 教育委員会の施策実行力・浸透度を高めるための方策

- ・ 学力向上策における教育委員会のリーダーシップについて検証  
→ 鹿児島大学教育学部との連携（4名の教授による論文）

平成29年度志布志市確かな学力向上第1ステージ（H28～H31）全体構想図



## いじめ問題の現況と取組について

### 1 いじめ問題の現況

#### (1) 平成29年度のいじめ報告件数

校種	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	合計
小学校	0	3	1	0	0	5	1	10
中学校	0	1	3	0	0	0	1	5

#### (2) いじめの概要

- ・ 小学2年男子に対して、同級生男子2人が下校中に嫌なことを言ったり、荷物を持たせたりした。
- ・ 小学2年男子に対して、同級生男子4人が戦いごっこしてエスカレートし、パンチや蹴りを入れた。
- ・ 小学3年男子に対して、小学2年男子4人が戦いごっこしてエスカレートし、パンチや蹴りを入れた。
- ・ 小学3年女子に対して、同級生女子の複数人が遠足の昼食時に仲間はずれをした。
- ・ 小学3年女子に対して、同級生女子が「どいて」等、きつい口調で言った。
- ・ 小学4年女子に対して、同級生男子3人が近くを通るときに鼻をつまみ息を止めるようなしぐさをしたり、避けたりしていた。
- ・ 小学5年女子に対して、同級生男子1人と女子2人が仲間はずれにした。
- ・ 小学6年男子に対して、同級生男子が体育の着替えの際にズボンを隠した。
- ・ 小学6年男子に対して、同級生男子が掃除時間に砂をかけ続けた。
- ・ 小学6年女子に対して、誰かが鍵盤ハーモニカの鍵盤に絵の具を付けた。
- ・ 中学1年女子に対して、同級生女子2人がトイレで胸部をわざと触った。
- ・ 中学1年女子に対して、同級生女子2人が悪口や嫌がらせを続けた。
- ・ 中学1年女子に対して、同級生男子1人が好意があるように装い偽の手紙を出し、その反応を見て、同級生女子2人とともに嘲笑した。
- ・ 中学2年男子に対して、同級生男子が嫌なあだ名を言ったり、からかったりした。
- ・ 中学2年男子に対して、同級生男子6人が持ち物が壊したり隠したりした。

### 2 いじめ問題への取組

(1) 「志布志市いじめ防止基本方針」改訂（平成26年12月策定，最終改定：平成29年3月31日）

(2) 「学校いじめ防止基本方針」改訂（全学校HP上に公開済み）

- いじめの定義 … けんかやふざけ合いであっても、児童生徒の感じる被害性に着目し、いじめに該当するか否かを判断する旨を追記。
- いじめ解消の定義 … ① いじめに係る行為がやんでいること（少なくとも3か月継続）。  
② 被害児童生徒が心身の苦痛を感じていないこと。

(3) いじめの認知についての共通理解

- 1件でも多く発見し、それらを迅速かつ丁寧に全校体制で解消していく学校こそが、家庭や地域から信頼される学校である。早期発見と迅速かつ適切な対応に努めなければならない。

(4) 「いじめ問題を考える週間」の確実な実施と有効的な取組の実施

- 年間を通して学期始めに、全ての公立学校の全学級において、いじめ問題に関する授業を実施し、児童生徒に「学校はいじめ問題に真剣に取り組む、自分たちを守ってくれる。」ということを実感させるとともに、いじめは絶対に許されない行為であり、自ら命を絶ってはならないこと等を伝えることを通して、いじめ問題の解決を図る。

- ・ いじめ問題等の実態調査（無記名アンケート等）を確実に実施する。
- ・ 「いじめをするな」の教育から「〇〇しよう」の教育に重点を置く。  
→ 「いじめを傍観するな」という指導ではなく、「いじめに遭遇したら、〇〇しよう」という具体的な行動を示した指導
- ・ 道徳や学級活動の時間にいじめ問題や命の大切さを主題にした授業を全学級で実施する。
- ・ スマートフォンなどインターネット接続機器に関する指導など情報モラルについても配慮する。
- ・ 教師からの働きかけのほかに、児童会や生徒会活動など主体的な活動を工夫する。
- ・ 児童生徒ばかりではなく、保護者や校区民のいじめに対する意識を高められるようにする。

## 志布志市奨学金について

## 1. 事業内容

有用な人材を育成するため、能力があるにもかかわらず経済的理由によって修学困難な者に対して学資を貸与し、高等学校や大学等へ進学・通学しやすい環境を整えることを目的とする。

## 【対象者】

高等学校、高等専門学校（専門学校を含む。）及び大学（短期大学及び大学院含む。）又はこれらの学校に相当する外国の学校に在学する者

## 【奨学金の額】

- (1) 高校生 月額15,000円（年額180,000円）
- (2) 高等専門学校生又は大学生  
月額30,000円（年額360,000円）又は月額50,000円（年額600,000円）
- (3) 外国の学校への留学生 月額50,000円（年額600,000円）

## 2. 平成 29 年度貸付状況

(単位：円)

	内 訳	貸付金額	備 考
高校生	15,000 円×19 人×12 月	3,420,000	※大学生等 ・休学による貸与の休止1人 50,000 円×12 か月＝ 600,000 円
大学生等	30,000 円×23 人×12 月 50,000 円×56 人×12 月	41,280,000	
合計	98 人	44,700,000	

## 3. 貸与の推移

平成 28 年度より世帯合計所得 500 万円以内の基準額を撤廃し、大学生等について、従来の月額 3 万円に、月額 5 万円の枠を新たに設け、保護者や奨学生本人の返還にかかる負担を少しでも軽減するため、償還期間を最長 10 年から 15 年に延長を行った。

その結果、本年度は前年度に比べ貸与人数 27 名の増加、貸与額は 13,260 千円の増加となった。

年 度	平成 29 年度	平成 28 年度	平成 27 年度
人 数	98	71	52
金 額	44,700,000	31,440,000	17,670,000

